

法務省“社会を明るくする運動”中央推進委員会主催  
第71回“社会を明るくする運動”作文コンテスト

もっと見て聞いて

愛媛県・西条市立東予西中学校・三年

伊藤 暖

皆さんは、誰かに「つらい」と言われた時、その人にどう声をかけますか。どのように接しますか。

中学一年生の時、私は学校に行くのがしんどくなりました。原因は人間関係です。周りの人が自分のことをどう思っているのか、私は、皆にどう思われているんだろう、嫌われているのだろうか、考えすぎて辛くて怖くてたまりませんでした。そんな私に母は何がっらいかわからないので、「とにかく学校に行きなさい。」

と言っていました。そう言われても、私も行きたいけれど怖くて、行けば何かを言われるかもしれない、という不安がつのるばかりで、とにかく怖くてつらくて耐えられませんでした。そんな時父が、

「ひなた、ゆっくりでいいんだよ。」

と声をかけてくれたのです。その時私は、こんなふうに学校に行けない自分でも、周りの人とうまくできない自分でも、父は受け入れてくれるんだと思いました。そう思うとだんだん前向きになることができ、学校にも行けるようになりました。おかげで今はクラスの学級委員長を務め、自分から進んで発表するなど、人前に入る事が怖くなくなりました。

「誰かに受け入れてもらうことで、前向きになれる」これは誰にでも共通することなのではないかと思います。例えば私のように人間関係で悩んでいる人。何かうまくいかないことがあって後ろ向きになっている人。罪を犯してしまった人もそうです。調べてみると、再犯の理由はいろいろだけど、仕事がうまくいかず経済的にしんどくなったり、職場や地域で孤独だったり、ということも再犯の大きな理由だそうです。

そんな人たちの心はどうでしょうか。私はその人たちの心を見ると、とてもつらく思いました。「働きたいけど怖くて働けない」「またうまくいかないかもしれない」と、怖くて苦しくて、つらい気持ちでいっぱいなのではないでしょうか。過去に「罪を犯した」そんなことは自分が一番わかっています。中には「なぜこんなことをしたのだろう。」と後悔している人もいます。過去に前科があっても、今、がんばって、必死に働こうとしている人もいます。そんな人たちにとって、自分を受け入れてもらえることは、どんなにうれしいことでしょうか。私もできないことがある自分を、そのまま受け入れてもらえたことで、心が軽くなりました。罪を犯した人たちにとっても、過去の罪は過去の罪、今現在前向きにがんばろうとしていることを受け入れてもらえることで、もし何かうまくいかないことがあっても、もう少しがんばろう、という勇気を持てるのではないのでしょうか。誰にとっても「そのままの自分でいいんだよ」と言ってもらえることは、とても大きな心の支えになると思います。

誰もがありのままの自分を出せる社会。ありのままのその人を受け入れる社会。それが「明るい社会」につながるのではないのでしょうか。一人一人の、受け入れるという気持ちが、誰かの心を明るくすると思います。過去に過ちを犯したから、という理由で受け入れてもらえないと、人間は決して失敗してはならないことになってしまいます。誰だって失敗してしまうことはあります。けれど、今、がんばろうとしている人もいます。その人たちを受け入れ、「一緒にがんばろう」という声を、私はかけたいです。

そんな一言をかけられる人になるために、今私にできることは、もっと周りを見て、周りの人の声を聞くことだと思います。自分の周りにつらく思っている人はいないか、自分に自信が持てずに苦しんでいる人はいないか、そんなことに気づき、その人たちの声を聞ける人になりたいです。そして父が私にしてくれたように、「大丈夫だよ。ゆっくりでいいよ。一緒にがんばろう。」と声をかけられるようになりたいです。

その一言が、その相手の話を聞く行動が、きっと私たちの社会を明るくします。そんな一言が当たり前の社会は、きっとどんな人にもあたたかい、やさしい社会だと思います。ぜひ一緒にそんな社会を作っていきましょう。